

アンケート調査の分析手法と妥当性について

環境省「令和元年度 社会福祉施策と連携した多頭飼育対策推進事業」アンケート結果に対し、前回の検討会での議論を受け、以下の3つの分析を行った。

1. 多頭飼育者が持つ要素の類型化 (因子分析)
2. 自治体による取組に見られる要素の類型化 (質的因子分析)
3. 「多頭飼育者の行動変容による解決」へ影響のある項目の特定 (判別分析)

1. 多頭飼育者が持つ要素の類型化

アンケート調査票【Q2】の中で、多頭飼育者の特徴を尋ねた「(2) 生活の状況」と「(3) セルフ・ネグレクトについて」における45個の質問(図表1)に対する回答を対象に因子分析(有効回答事例数:240事例)を行い、その結果を基に多頭飼育者が持つ要素の類型化を行った。因子負荷の推定には最尤推定法を、回転にはプロマックス回転を用いた。なお、図表1の中で、分析過程において「多頭飼育者の状態像に含まれない(因子への寄与率が0.3以下)」と判断された質問項目が5つ確認され、これらを分析対象から除外している。

- もともと保護活動や譲渡活動を行っている(いた)
- 繁殖業に従事したことがある(いた)
- 動物行政担当者よりも、動物愛護団体を信頼している(いた)
- ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくる(いた)
- 近隣住民との間でトラブル・苦情が発生している(いた)

因子分析の結果、多頭飼育者は7つの要素(因子)に分類された。その結果を図表2に、各因子間の相関を図表3に示している。

【図表2の見方】

ここでは同じ因子に属する質問項目の因子負荷量を黄色で塗りつぶしている。例えば、因子1に属する質問項目は、

- 排泄物や排泄物で汚れた衣類や物が放置されている(いた)
- 室内で害虫が発生している(いた)
- 室内で悪臭がする(した)
- 家屋内にカビが発生している(いた)
- 食べ物やゴミが放置されている(いた)
- 屋外まで悪臭がする(した)
- 屋外まで害虫が発生している(いた)
- 窓が壊れているなど修理すべき箇所を修繕していない(いなかった)
- 身体から悪臭がする(した)
- 髪・髭・つめが伸び放題である(あった)
- 近隣住民との関わりがない(なかった)

となる。左の列には、各因子における寄与率の高い質問項目からそれらの構成概念を推測した各因子の名称と、 α 係数を示している。

図表 1 因子分析に用いた質問項目

視点	質問項目	視点	質問項目
経済状況	経済的に困窮している (いた)		室内で悪臭がする (した)
認知症、精神疾患、知的障害等が疑われる症状	被害妄想のような発言をしている (いた)	住宅内の衛生状態	屋外まで悪臭がする (した)
	経緯の説明に一貫性がなく、二転三転している (いた)		室内で害虫が発生している (いた)
	短時間のうちに同じ話を何度も繰り返している (いた)		屋外まで害虫が発生している (いた)
	担当者個人の顔を覚えていないことがある (あった)		食べ物やゴミが放置されている (いた)
	読み書きや計算に困難を伴う (伴っていた)		排泄物や排泄物で汚れた衣類や物が放置されている (いた)
	先のことを予測したり、欲求をコントロールすることが難しい (難しかった)		家屋内にカビが発生している (いた)
生活の乱れ	アルコールに依存する様子が見られる (見られた)	飼育者自身の衛生状態	窓が壊れているなど修理すべき箇所を修繕していない (いなかった)
	ギャンブルに依存する様子が見られる (見られた)		ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくる (きた)
健康状態	身体的な病気や、筋力・歩行の弱さが見られる (見られた)	他人との関わりを拒否する	髪・髭・つめが伸び放題である (あった)
	十分な食事を取っていない様子が見られる、もしくはやせが目立つ。入退院をくりかえしている (いた)		身体から悪臭がする (した)
動物とのかわりに見られる特徴 (ホーダー気質の有無等)	動物への過度の愛着を持っている (いた)	保険医療福祉サービスの利用状況	全裸に近い状態である (いた)
	殺処分を恐れている (いた)		ボロボロの衣類を着用している (いた)
	動物を殴ったり威張るなどの支配欲を持っている (いた) (扱いが粗雑である (あった))	他人との関わりを拒否する	必要な医療の提供を拒否する (した)
	もともと保護活動や譲渡活動を行っている (いた)		必要な保健・福祉サービスを拒否する (した)
繁殖業に従事したことがある (あった)		他人との関わりを拒否する (した)	
動物の所有権を放棄しようとしな (しなかった)		近隣住民との関わりがない (なかった)	
行政関係者との関係構築	行政担当者の話に拒否反応が見られる (見られた)	金銭・財産管理能力の有無	近隣住民との間でトラブル・苦情が発生している (いた)
	動物行政担当者よりも、保健師・福祉担当者を信頼している (いた)		金銭の適切な使い方ができない (なかった)
	動物行政担当者よりも、動物愛護団体を信頼している (いた)		ライフライン (ガス、水道、電気) が、一部又は全部途絶えている (いた)
暴力的な言動	怒鳴られたり、非難・暴言を向けられたりすることがある (あった)		家賃や公共料金が未払いである (あった)
	暴力を振るわれる恐れを感じる (感じた)		
	担当者に暴力を振るう (振るわれた)		

図表 2 因子分析結果

因子	因子名	質問項目	因子							共通性	独自性	負荷量平方和
			1	2	3	4	5	6	7			
因子1	不衛生 ($\alpha=0.904$)	排泄物や排泄物で汚れた衣類や物が放置されている (いた)	0.901	-0.076	-0.129	-0.031	-0.093	-0.027	0.062	0.614	0.386	5.413
		室内で害虫が発生している (いた)	0.860	-0.034	-0.067	0.053	-0.092	0.007	-0.018	0.619	0.381	
		室内で悪臭がする (した)	0.840	-0.207	-0.072	-0.053	-0.036	0.034	-0.024	0.555	0.445	
		家屋内にカビが発生している (いた)	0.821	-0.117	0.028	-0.029	-0.037	0.008	0.013	0.628	0.372	
		食べ物やゴミが放置されている (いた)	0.814	0.040	-0.116	0.022	-0.047	0.064	-0.052	0.587	0.413	
		屋外まで悪臭がする (した)	0.779	-0.060	-0.037	-0.012	0.082	-0.105	-0.004	0.537	0.463	
		屋外まで害虫が発生している (いた)	0.730	0.092	-0.100	0.042	0.002	0.008	0.021	0.529	0.471	
		窓が壊れているなど修理すべき箇所を修繕していない (いなかった)	0.584	-0.059	0.199	0.090	-0.164	0.128	0.000	0.514	0.486	
		身体から悪臭がする (した)	0.532	0.158	0.125	-0.122	0.083	-0.040	0.012	0.507	0.493	
		髪・髭・つめが伸び放題である (あった)	0.366	0.305	-0.015	-0.083	0.039	0.049	0.031	0.350	0.650	
近隣住民との関わりがない (なかった)	0.346	-0.048	0.021	0.092	0.125	-0.076	0.012	0.164	0.836			
因子2	自立困難 ($\alpha=0.838$)	短時間のうちに同じ話を何度も繰り返している (いた)	-0.095	0.840	-0.117	-0.076	0.227	-0.020	0.008	0.687	0.313	3.933
		担当者個人の顔を覚えていないことがある (あった)	-0.085	0.776	-0.151	-0.007	-0.086	0.042	0.028	0.488	0.512	
		読み書きや計算に困難を伴う (伴っていた)	-0.089	0.743	0.004	0.036	-0.145	-0.015	0.019	0.474	0.526	
		被害妄想のような発言をしている (いた)	-0.047	0.633	-0.099	0.093	0.288	0.019	0.080	0.634	0.366	
		経緯の説明に一貫性がなく、二転三転している (いた)	-0.049	0.574	0.045	0.068	0.177	0.034	0.050	0.517	0.483	
		身体的な病気や、筋力・歩行の弱さが見られる (見られた)	-0.032	0.531	-0.001	-0.013	-0.172	-0.046	-0.126	0.219	0.781	
		先のことを予測したり、欲求をコントロールすることが難しい (難しかった)	0.141	0.499	0.095	-0.038	0.172	-0.068	0.027	0.463	0.537	
		動物行政担当者よりも、保健師・福祉担当者を信頼している (いた)	0.039	0.370	0.130	-0.096	0.043	0.117	0.063	0.315	0.685	
		ボロボロの衣類を着用している (いた)	0.185	0.353	0.144	0.039	0.007	0.137	-0.119	0.384	0.616	
		十分な食事を取っていない様子が見られる、もしくはやせが目立つ。 入退院をくりかえしている (いた)	0.052	0.337	0.179	-0.071	0.011	0.023	-0.005	0.236	0.764	
家賃や公共料金が未払いである (あった)	-0.257	-0.233	1.118	0.062	-0.004	0.032	0.033	0.851	0.149			
因子3	貧困 ($\alpha=0.768$)	ライフライン (ガス、水道、電気) が、一部又は全部途絶えている (いた)	-0.019	-0.073	0.847	0.074	-0.046	-0.063	-0.019	0.587	0.413	2.280
		金銭の適切な使い方ができない (なかった)	0.057	0.213	0.503	-0.053	0.024	-0.009	0.015	0.452	0.548	
		経済的に困窮している (いた)	0.136	0.041	0.418	0.016	-0.034	-0.059	0.007	0.252	0.748	
因子4	暴力 ($\alpha=0.745$)	暴力を振られる恐れを感じる (感じた)	0.034	-0.092	0.106	1.076	-0.142	0.010	-0.066	0.995	0.005	2.108
		担当者に暴力を振るう (振られた)	-0.005	-0.025	0.026	0.707	-0.046	0.031	0.081	0.515	0.485	
		怒鳴られたり、非難・暴言を向けられたりすることがある (あった)	0.010	0.129	0.035	0.599	0.120	0.025	-0.042	0.494	0.506	
因子5	固執 ($\alpha=0.706$)	動物の所有権を放棄しようとしな (しなかった)	-0.100	-0.112	0.003	-0.052	0.744	0.030	0.048	0.479	0.521	1.989
		殺処分を恐れている (いた)	-0.033	-0.137	0.064	-0.007	0.741	-0.062	-0.058	0.476	0.524	
		動物への過度の愛着を持っている (いた)	0.017	-0.011	-0.098	-0.040	0.687	0.019	-0.107	0.410	0.590	
行政担当者の話に拒否反応が見られる (見られた)	-0.015	0.258	-0.081	0.207	0.383	-0.016	0.029	0.378	0.622			
因子6	サービス拒否 ($\alpha=0.895$)	必要な医療の提供を拒否する (した)	-0.046	0.052	-0.082	0.026	-0.035	1.030	-0.005	0.995	0.005	1.852
		必要な保健・福祉サービスを拒否する (した)	0.019	-0.084	-0.018	0.040	0.007	0.847	0.006	0.673	0.327	
因子7	依存 ($\alpha=0.867$)	ギャンブルに依存する様子が見られる (見られた)	-0.025	-0.063	0.116	-0.037	-0.138	0.004	1.019	0.995	0.005	1.713
		アルコールに依存する様子が見られる (見られた)	0.047	0.034	-0.062	0.032	-0.055	-0.002	0.788	0.626	0.374	

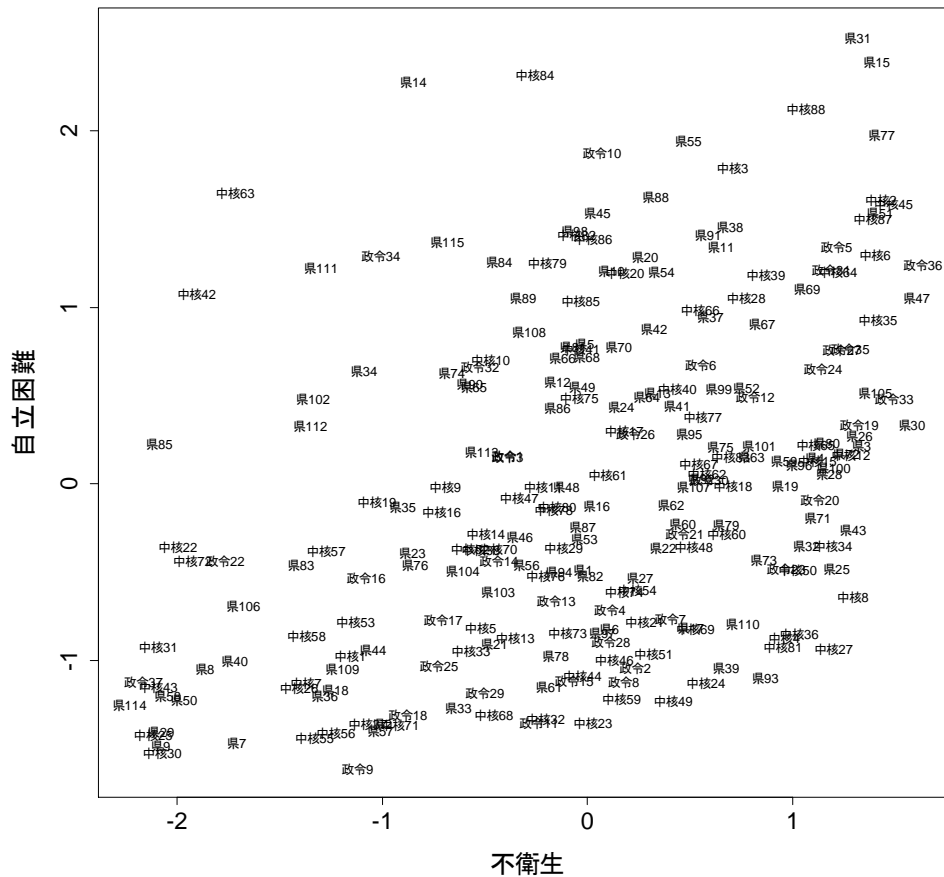
図表 3 因子相関

因子	不衛生	自立困難	貧困	暴力	固執	サービス拒否	依存
不衛生	1.00	0.40	0.61	0.09	0.34	0.37	0.21
自立困難	0.40	1.00	0.47	0.26	0.34	0.44	0.28
貧困	0.61	0.47	1.00	0.03	0.33	0.42	0.26
暴力	0.09	0.26	0.03	1.00	0.38	0.08	0.32
固執	0.34	0.34	0.33	0.38	1.00	0.32	0.24
サービス拒否	0.37	0.44	0.42	0.08	0.32	1.00	0.28
依存	0.21	0.28	0.26	0.32	0.24	0.28	1.00

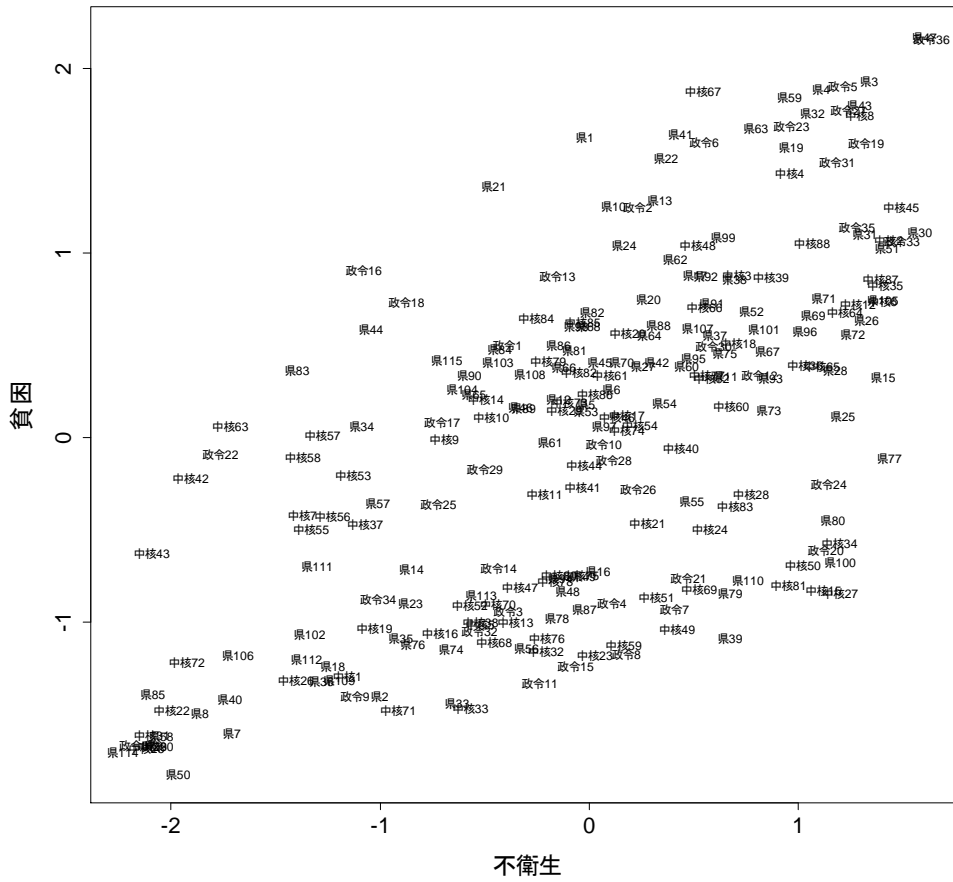
図表 2、図表 3 にて確認できる通り、本分析によって得られた 7 つの因子に対して、それぞれの構成概念を推測し、各因子の名称を「因子 1：不衛生」、「因子 2：自立困難」、「因子 3：貧困」、「因子 4：暴力」、「因子 5：固執」、「因子 6：サービス拒否」、「因子 7：依存」とした。

次いで、図表 4、図表 5 に因子 1「不衛生」と因子 2「自立困難」、因子 1「不衛生」と因子 3「貧困」についての因子スコア散布図を示す。この図より、個々の事例が持つ特徴がバラバラであり、多頭飼育問題が様々な要素を含む非常に複雑なものであることがわかる。

図表 4 因子 1「不衛生」×因子 2「自立困難」の因子スコアの散布図



図表 5 因子1「不衛生」×因子3「貧困」の因子スコアの散布図



最後に、因子分析から得られた各因子に含まれる質問項目とアンケートへの定性的な回答（コメント等）を照らし合わせることで、各因子に該当する多頭飼育者が持つ要素の特徴を考察した。

図表 6 多頭飼育者が持つ要素とその特徴（案）

要素	主な特徴
不衛生	飼育場所もしくはその屋外、またはその両方に動物の糞尿や白骨死体、ゴミが大量に放置されており、そのため敷地からは非常に強い悪臭や害虫が発生している。当事者は、そのような状況を気にかけおらず、本人からも入浴や洗濯を怠ることによる獣臭・悪臭や、ノミ・ダニ等の害虫による全身への刺咬跡が見られることがある。
自立困難	会話を通して、「担当者の顔を把握していない」、「複数の問題を同時に処理できない」、「話を理解できていない様子が見られる」、「動物の個体識別ができていない」等の知能の低下、老いや病気による歩行困難等の身体的な能力の低下といった 1 人での生活が困難であると思われる特徴を持ち、その結果、動物への世話も十分に行き届いていないことがある。このような特徴を持つことから、ホームヘルパーや介護サービス等が関与していることも少なくない。
貧困	経済的な困窮により、動物引取りの手数料が払えないだけでなく、家賃や公共料金の未払いといった状況も見られる。日雇い労働や年金、知人からの支援等によってある程度の収入を得ていることもあるが、金銭の適切な使い方ができていないことが多い。
暴力	近所の住民への暴言や威嚇的行動や、自治体職員の訪問に対しても暴れる等の攻撃的な態度での抵抗が見られる。常時そのような態度となるわけではなく、自治体職員だけには温和な態度を取ること（その逆もあり得る）や、動物の話になると態度が急変するといった、特定の人物または話題にのみ攻撃的な態度を取る場合もある。
固執	動物の所有権を放棄しようとしなない、または殺処分や不妊去勢手術へ非常に強い抵抗感を示す。当事者の住居とは別の場所で動物を飼養している場合もある。
サービス拒否	医療や保険、福祉サービスを拒否する傾向が強い。病気を患っていたとしても医療機関への受診を行わないため、症状が悪化してしまい、結果として本人と動物の生活状況が悪化する。
依存	指導の度に飲酒した状態で応対するといった、アルコールやギャンブル等への依存が見られる。動物に対しては、特定の 1 匹に特別な愛情を注ぐことや、睡眠時間を削って犬の世話をする等、他タイプ以上の変わった犬への依存が見られることもある。

2. 自治体による取組に見られる要素の類型化

アンケート調査票【Q1】の中で、自治体による取組を尋ねた「(4) 多頭飼育に対する福祉部局との連携・協力の状況」と「(5) 多頭飼育に対する他部署・他機関との連携・連絡体制の構築の状況」における 37 個の質問への回答を対象に因子分析（有効回答自治体数：121）を行い、その結果を基に自治体による取組に見られる要素の類型化を行った。因子負荷の推定には最尤推定法を、回転にはプロマックス回転を用いた。なお、本分析の対象となった質問への回答は 3 択であることから、ポリコリック相関係数を用いた質的因子分析を実施している。

図表 7 質的因子分析に用いた質問項目（各連携対象との取組の有無について質問）

連携対象	取組	連携対象	取組
福祉部局 ¹	市民への啓発	獣医師会・動物病院	動物愛護管理部局への通報
	説得・同行		不妊去勢手術への説得・調整
	不妊去勢手術の普及啓発		不妊去勢手術の実施
	戸別訪問への同行		飼養状況改善の説得・調整
	メンタルケア		動物の引取りの説得・調整・実施
	生活支援		定期的な戸別訪問への同行
	研修		収容動物の世話
社会福祉協議会・民生委員	動物愛護管理部局への通報	動物愛護団体・ボランティア・動物愛度推進員	動物愛護管理部局への通報
	不妊去勢手術への説得・調整		不妊去勢手術への説得・調整
	飼養状況改善の説得・調整		不妊去勢手術の実施
	動物の引取りの説得・調整・実施		飼養状況改善の説得・調整
自治会・町内会	定期的な戸別訪問への同行	警察	動物の引取りの説得・調整・実施
	動物愛護管理部局への通報		定期的な戸別訪問への同行
	不妊去勢手術への説得・調整		収容動物の世話
	飼養状況改善の説得・調整		動物愛護管理部局への通報
	動物の引取りの説得・調整・実施		不妊去勢手術への説得・調整
自治会・町内会	定期的な戸別訪問への同行	警察	飼養状況改善の説得・調整
	収容動物の世話		動物の引取りの説得・調整・実施
			定期的な戸別訪問への同行

因子分析の結果、自治体による取組に見られる要素は 4 因子に分類された。その結果を図表 8 に、各因子間の相関を図表 9 に示している（本分析では各因子に対して適当な名称を付けることが困難であるため、「因子 1」の形での記載となっている）。

¹ 「(4) 多頭飼育に対する福祉部局との連携・協力の状況」については、その選択肢が「1：実施済み・取組中である、2：未実施だが、実施に向け調整・検討中、3：未実施であり、取組の予定はない」となっており、「(5) 多頭飼育に対する他部署・他機関との連携・連絡体制の構築状況」における選択肢の順序と異なっていた。そこで、当該質問への回答における 1 と 3 を入れ替えて分析を実施した。

図表 8 質的因子分析による因子負荷行列

因子	質問項目	因子				共通性	独自性	負荷量平方和
		1	2	3	4			
因子1	民生委員・動物の引取りの説得・調整・実施	0.989	-0.174	-0.040	0.138	0.864	0.136	8.438
	民生委員・定期的な戸別訪問への同行	0.916	-0.032	0.057	0.036	0.888	0.112	
	民生委員・不妊去勢手術の説得・調整	0.892	-0.080	0.059	0.098	0.844	0.156	
	自治体・定期的な戸別訪問への同行	0.872	0.104	0.100	-0.112	0.919	0.081	
	民生委員・飼養状況改善の説得・調整	0.795	0.173	-0.119	0.111	0.814	0.186	
	民生委員・動物愛護管理局への通報	0.791	-0.086	-0.242	0.408	0.752	0.248	
	自治体・不妊去勢手術の説得・調整	0.743	0.050	0.305	-0.140	0.855	0.145	
	自治体・動物の引取りの説得・調整・実施	0.721	0.176	0.161	-0.044	0.857	0.143	
	自治体・飼養状況改善の説得・調整	0.717	0.240	0.136	-0.187	0.826	0.174	
	自治体・動物愛護管理局への通報	0.612	0.141	-0.025	0.060	0.521	0.479	
因子2	獣医師会・飼養状況改善の説得・調整	-0.138	0.996	0.135	0.032	0.995	0.005	6.866
	獣医師会・動物の引取りの説得・調整・実施	-0.053	0.887	0.116	0.100	0.914	0.086	
	獣医師会・不妊去勢手術の説得・調整	-0.217	0.841	0.275	0.160	0.890	0.110	
	獣医師会・動物愛護管理局への通報	-0.110	0.755	0.123	0.185	0.697	0.303	
	獣医師会・定期的な戸別訪問への同行	0.333	0.605	-0.154	0.136	0.698	0.302	
	獣医師会・収容動物の世話	0.082	0.570	0.201	-0.103	0.517	0.483	
	警察・動物の引取りの説得・調整・実施	0.203	0.544	-0.055	-0.020	0.429	0.571	
	警察・飼養状況改善の説得・調整	0.436	0.512	-0.132	-0.172	0.551	0.449	
	獣医師会・不妊去勢手術の実施	-0.195	0.508	0.487	0.116	0.633	0.367	
	警察・不妊去勢手術の説得・調整	0.281	0.424	-0.045	0.015	0.386	0.614	
	警察・動物愛護管理局への通報	0.061	0.403	0.132	0.127	0.344	0.656	
	警察・定期的な戸別訪問への同行	0.254	0.389	0.015	-0.103	0.314	0.686	
因子3	愛護団体・不妊去勢手術の説得・調整	0.051	0.072	0.921	-0.001	0.977	0.023	5.684
	愛護団体・飼養状況改善の説得・調整	0.078	0.133	0.851	0.058	0.995	0.005	
	愛護団体・不妊去勢手術の実施	-0.166	0.089	0.847	-0.017	0.652	0.348	
	愛護団体・動物の引取りの説得・調整・実施	0.205	0.137	0.714	0.046	0.900	0.100	
	愛護団体・定期的な戸別訪問への同行	0.603	-0.250	0.670	-0.083	0.885	0.115	
	愛護団体・動物愛護管理局への通報	0.039	0.164	0.643	0.170	0.715	0.285	
	愛護団体・収容動物の世話	0.067	0.227	0.363	-0.187	0.267	0.733	
因子4	福祉部局・研修	0.084	-0.696	0.462	0.838	0.995	0.005	3.960
	福祉部局・不妊去勢手術の普及啓発	-0.063	0.206	-0.152	0.813	0.674	0.326	
	福祉部局・市民への啓発	-0.068	0.044	-0.092	0.773	0.541	0.459	
	福祉部局・説得・同行	0.152	-0.040	0.120	0.624	0.547	0.453	
	福祉部局・戸別訪問への同行	0.053	-0.005	0.227	0.580	0.517	0.483	
	福祉部局・メンタルケア	0.061	0.288	-0.086	0.502	0.425	0.575	
	福祉部局・生活支援	0.052	0.253	-0.073	0.461	0.350	0.650	

図表 9 質的因子分析による因子相関

因子	1	2	3	4
1	1.000	0.633	0.534	0.394
2	0.633	1.000	0.512	0.325
3	0.534	0.512	1.000	0.354
4	0.394	0.325	0.354	1.000

3. 「多頭飼育者の行動変容による解決」へ影響のある項目の特定

アンケート調査票【Q2】における「(1)-18 事案終結の経緯（飼育者の状況）」への選択肢のうち、「1) 飼育者の納得と行動変化」について、他質問項目との関連性を把握するために判別分析（数量化2類）を行った。

「1) 飼育者の納得と行動変化」の回答を目的変数とした場合の説明変数を選定するために、初めに「1) 飼育者の納得と行動変化」と Q2 におけるそれ以外の質問項目に対して、独立性の検定を行った。基本的にはカイ 2 乗検定で判断し、データ数が少ない質問項目についてはフィッシャーの直接確立法を用いた。これらの検定で 5%の有意差が確認できた 11 の質問項目（図表 10）を本分析における説明変数とした²。

図表 10 独立性の検定によって 5%有意差が見られた質問項目

項目	p値
年齢	0.01056
同居していない家族の有無（その他）	0.0007926
多頭飼育に係る動物を入手した経緯（その他・不明）	0.01685
事案終結の経緯（動物の状況）（不妊去勢手術の実施）	0.0003178
事案終結の経緯（動物の状況）（その他）	0.01427
繁殖業に従事したことがある（あった）	0.03623
動物の所有権を放棄しようとしなかった（しなかった）	0.01864
ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくる（きた）	0.02957
必要な保健・福祉サービスを拒否する（した）	0.03788
不妊去勢手術を行っていない動物がいる（いた）	0.02438
動物の治療や感染症対策に際し、獣医師会・動物病院が協力している（していた）	0.01006

これら 11 の質問項目を用いた判別分析（数量化2類）の結果を図表 11 で示す。本分析で得られた判別式を用いて、実際の回答との比較を行ったところ、その判別的中率は 83.3%となり、一定のレベルでの正確な判別を行うことができた。

² 【Q2】「(2) 生活の状況」以降の質問については、5 段階の選択肢を「3:あてはまる、2:どちらとも言えない、1:あてはまらない」の 3 段階に再分類して分析を行った。

図表 11 判別分析結果 (カテゴリースコアとレンジ)

項目	カテゴリースコア	レンジ
~20代	-0.87	
30代	0.09	
40代	0.43	1.30
50代	-0.35	
60代	0.39	
70代以上	-0.26	
同居はしていない「その他」の家族がいない	0.15	1.05
同居はしていない「その他」の家族がいる	-0.89	
多頭飼育に係る動物を入手した経緯が「その他」ではない	0.02	0.07
多頭飼育に係る動物を入手した経緯が「その他」である	-0.05	
事案終結した経緯が「不妊去勢手術」によるものではない	-0.15	0.71
「不妊去勢手術」によって事案が終結した	0.55	
事案終結した経緯が「その他」によるものではない	0.08	0.51
「その他」によって事案が終結した	-0.43	
繁殖業に従事したことがない	0.05	
繁殖業に従事したことがあるか、どちらとも言えない	-0.22	1.70
繁殖業に従事したことがある	-1.65	
動物の所有権を放棄しようとしないうけではない	0.31	
動物の所有権を放棄しようとしないうけについて、どちらとも言えない	-0.01	0.61
動物の所有権を放棄しようとしないう	-0.30	
ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくることはない	0.01	
ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくるかについて、どちらとも言えない	0.19	0.76
ごみ置き場から物をためこむ、あるいは外から拾ってくる	-0.57	
必要な保健・福祉サービスを拒否しない	0.05	
必要な保健・福祉サービスを拒否するか、どちらとも言えない	-0.14	0.27
必要な保健・福祉サービスを拒否する	0.14	
全ての動物に対して不妊去勢手術が行われている	-0.66	
不妊去勢手術の実施状況について、どちらとも言えない	-0.51	0.69
不妊去勢手術を行っていない動物がいる	0.02	
動物の治療や感染症対策に際し、獣医師会・動物病院との協力が行われていない	0.11	
動物の治療や感染症対策に際し、獣医師会・動物病院との協力について、どちらとも言えない	-0.86	1.09
動物の治療や感染症対策に際し、獣医師会・動物病院が協力している	0.23	

以上